



No. 8

2007.7.1

田植え体験に歓声

5月14日から6月1日まで7回にわたり田植え体験をしました。田植え体験をしたのは小学校8校、中学校1校です。田植えは1年中できるわけではありませんので、ちょうど田植えの時期に来所する自然教室の学校だけしか体験できないプログラムです。今年は9校が希望しました。田んぼや苗は地元の人々の協力を得て提供していただきました。田んぼに入るのはほとんどの子どもは初めてで、泥に足をとられたり、ぬるぬるする泥の感触に初め戸惑っていましたが、地元の人たちに指導を受けながら、すぐに慣れて上手に植えることができました。うまく植えることができたとほめられ、みな歓声を上げていました。幸い全日程天候に恵まれ、楽しい貴重な体験ができました。秋には収穫することになりますが、そのころに自然教室で来所する学校で収穫体験を希望すれば、鎌を使っての刈り入れを経験することができます。田植えや刈り入れを体験した学校には、収穫し精米したお米を送ります。昨年は送られたお米を炊いて収穫祭を行い、みんなでおにぎりを作って食べた学校もありました。また、今年地元富士見町の学校との交流会を通して、地元の子どもと一緒に田植え体験をした学校が1校ありました。

所長のひとりごと 6

三井 一 則

ある日の自然教室でのこと、数人の子どもたちが「あっ、サクラソウだ。これって絶滅危惧種なんだよね。」と、咲き始めた花壇のサクラソウを見つけ話していました。何気に植えられていて、特に注意書きをすることもなく、しっかり保護しているでもなく、他の花と同様に毎年花をつけています。それでも、「レッドデータブック」のリストに記載される花の仲間になっていることを、子どもたちはちゃんと知っていました。昔は、といっても昭和のはじめ頃(?)には川崎でも群生地があって、いくらでも見る事が出来たのでしょうか。生育地の開発等によって減少の一途をたどってきた、貴重な花に通りすがりに気づいてくれたのです。たぶん学校や家庭でも、このことの重要性についての話がされていたからなのでしょう。子どもたちは「きれいだよね。この花あるんだよ、家にも。」と話ながらそこから去っていきました。

2007.7.1

八ヶ岳自然紀行

5月、6月に実施した主催事業の八ヶ岳

自然紀行の結果をお知らせします。5月は

4、6日、2泊3日で「山の恵みと新緑

棒道ハイキング」を27名の参加者を得

て実施しました。1日目は三分一湧水ま

で約5kmの信玄の棒道を、新緑を満喫

しながら歩き、近くのNHKの大河ドラ

マ風林火山で人気の「信玄館」を見学し

ました。夜は近くの温泉に行き入りまし

た。2日目はゴンドラで中腹までのぼり、

湿地帯の植物観察と入笠山登山をし、山

菜を摘みました。あまり採れませんでした

た。摘んだ山菜は自然の家に戻って全員

で野外料理をしましたが、予め職員が採

っておいた山菜と合わせててんぷらに

して食べました。これが実においしく

大変好評でした。夜はアストロハウスで

星空の観察、最後の日は近くをめいめい

散策し、思い思いにお土産の山菜を摘ん

で解散しました。最終日に雨が降りまし
たが、新緑と山菜を十分堪能していただ
ける企画でした。



6月は16・17日、1泊2日で「入笠山

登山と73万株のすずらんを見よう」を

実施しました。この時期入笠山の湿原に

は数え切れないほどのすずらんが咲き

誇り、あたりはすずらんの良い香りで満

たされます。参加者は27名。初日は富

士見高原スキー場までマイクロバスで

行き、そこから次第に緑の濃くなった林

道を30分ほど植物観察をしながら歩き、

不動清水まで行きました。夜はアストロ
ハウスで星座観察と金星、土星などを大
型天体望遠鏡で観賞しました。翌日は入

笠山のすずらん見物です。すずらんの咲

いている湿原まで歩いて登るグループ

とゴンドラで昇るグループに分かれま

した。山道を歩きながらクリンソウ、ミ

ヤマカタバミ、エンレイソウ、アマドコ

口などの草花に目をとめました。すずら

んは3分咲きでしたがあたりにはすず

らんの良い香りが漂っていました。入笠

山の頂上へも登り、雄大な景色を眺めま

した。その後パノラマスキー場の食堂で

昼食。取立ての新鮮な野菜サラダ、揚げ

たてのイタドリ、ヨモギ、ナスなどのて

んぷら、地物野菜の煮付けなど、ヘルシ

ーバイキングに舌鼓を打って、少年自然

の家に戻り解散しました。入梅入りが発

表された直後でしたが、最高の晴天に恵

まれ、可憐なすずらんや草花を満喫して

いただいた2日間でした。

インターネットでの

申し込み

ホームページから、ネット上での利
用申し込みが可能です。申し込ん
でいただいた場合、利用の可否を
出来るだけ早く、申込者に伝えよ
うと努力しております。調整に手
間取った場合でも2日以内に返信
しています。

川崎市内の団体、グループ、家族は
3ヶ月前から、川崎市外は2ヶ月前
から申し込みができます。ホームペ
ージから、直接申し込みができる
ほか、空き室情報、料金等について
も見るができますので参考に
してください。

<http://www.kawasaki-yatugatake.jp/>

jp/

もちろん、ファクスや郵便での申し
込みも受け付けております。

施設紹介

キャンプファイヤー場

川崎市八ヶ岳少年自然の家を利用するほとんどの学校団体、社会教育団体は夜の活動プログラムのひとつにキャンプファイヤーを計画しています。キャンプファイヤーは当施設の人気プログラムのひとつです。もちろん冬場は寒くて出来ませんが、寒い季節や雨の日はキャンプファイヤーをすることになります。昨年度キャンプファイヤーを行った団体は126団体を数え、12043人の人が赤々と燃える火を囲み歌を歌い、スタンツに興じ、仲間意識を高めたり、自分自身を見つめたりしました。こんなに多くの団体がキャンプファイヤーを行うためには同時に数箇所で行わなければ多くの団体のニーズに応えられませ

ん。そこでファイヤー場を3箇所用意しています。第1ファイヤー場、第2ファイヤー場、野外ステージです。それぞれ広さを変え、第1ファイヤー場は100人程度まで、第2ファイヤー場は150人程度まで、野外ステージは300人程度までがキャンプファイヤーを行うことが出来るようにしています。通常はこの



3箇所があれば間に合うのですが、夏休み期間中は十数団体が同時に

利用することもあり、3箇所では足りなくなります。そこであと2箇所、多目的広場と野外広場から来るようにしています。ファイヤー場がくっついていたのでは隣のファイヤーが気になってお互いに集中できません。ですからそれぞれのファイヤー場からはお互いの火が見えないようにお互いの声あまり聞こえないように気をつけて場所を設定しています。そこでファイヤー場は敷地の中に点々と散在しています。しかし、これだけ多くの団体がキャンプファイヤーを行うと、燃す丸太も半端な数ではありません。ちなみに1年間で2500本程になります。さらに燃す小さく割った薪や小枝まで数えるとすごい数になります。また、昨年度キャンプファイヤーを行った団体は51団体、5830人でした。

感想文より

私はキャンプファイヤーが特に心に残っています。あのキャンプの光がとてもきれいにみえたからです。それに野外炊事もハイキングも、それ以外のいろんなことで、いい心の中のアルバムができたのでよかったです。それにみんなが団結でき、たし、仲良しになれた人もいたのでよかったです。こんなにもいい思い出ができたのは宿舎の方々のおかげです。本当にありがとうございました。(中学1年 女子)



催しもの案内

八ヶ岳ふれあいイベント

土曜日、日曜日、祝日にグループ、家族でご利用いただく方を対象に、午前1回、午後1回、次のようなプログラムを用意しております。
 参加費1000円。星空観察は参加費無料。参加申し込み等、詳しくはお問い合わせください。

ネイチャークラフト

小鳥の巣箱作り、バードコール作り、白樺クラフト、焼き板クラフトの中から1つを選びます。
 八ヶ岳での思い出に、自分で作ったものをお土産に持ち帰ることがができます。

星空観察

19時～20時まで、アストロハウスで満天の星空を見ながら折々の星座観察と、大型天体望遠

鏡での天体観察をします。5～6月は美しい土星の輪を見ることができます。



八ヶ岳自然紀行

八ヶ岳の自然、地域、文化への理解を深めてもらえるように、毎月1回開催しています。

編笠山登山

・標高2500mの編笠山から雄大な南アルプスを眺めてみましょう。

・8月24日～26日(2泊3日)

幼児のためのお月見と自然遊び
 ・幼児を対象にお月見や自然の中で草木を使った遊びや体験を通して自然への関心や情操を深めます。

・9月22日～23日(1泊2日)

費用、内容、申し込み方法等、詳細についてはお問い合わせください。



あとがき

昨年の7～8月社会教育団体の利用者は54団体でした。今年は川崎市内団体は3月から、市外団体は4月半ばから申し込み受付を開始

しましたが、80団体を越えました。現在も小さなグループや家族の申込みが続いており、今年の夏の利用は過去最高になりそうです。それはうれしいことなのですが、あまりに利用団体数が多いと、日ごろ心がけているきめ細かい対応がおろそかになるのではないかと懸念しています。そうならぬよう気を引き締めている今日この頃です。

川崎市八ヶ岳少年自然の家

〒399-0101 長野県諏訪郡富士見町境字広原

12067-482

0266-66-2011

Fax0266-66-2014

ホームページでも情報をお伝えしています。

<http://www.kawasaki-yatugatake.jp/>

指定管理者 (社)富士見町開発公社